



アンケート



この度は、学期末のたいへんお忙しい中、さかとくインクルアンケートへの回答にご協力いただき、誠にありがとうございました。本校通学区域内すべての小中学校 237 名の先生方にご回答いただくことができ、今後の具体的な事業計画に向け、たいへん有効な資料となりました。

第1回さかとくインクル協議会においても協議の材料としてアンケート結果を提示させていただきましたが、今後の取り組みの参考となるよう各校へもメールにて送信させていただきますので、ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

7/26 (水) 第1回 さかとくインクル協議会【結果報告】



スーパーバイザー2名と外部委員8名の皆様をお招きし、第1回さかとくインクル協議会が本校会場にて開催されました。アンケートの結果を基に、地域の特別支援教育の現状と課題等について、それぞれの立場から貴重なご意見をいただきました。

*以下、協議内容を抜粋

★外部委員から

- ・子ども一人一人の困り感に焦点をあてた自立活動を実践しなければならないが、教員が苦勞している。
- ・以前に比べるとオープンにはなってきたが、小中学校の特別支援学級の取り組みを保護者や地域に公開していくことは、なかなか難しい。
- ・学校運営にあたり特別支援学級の充実が大きなウエイトを占めている。手立てがうまくいかず、子どもも教員も苦しんでいる。
- ・特別支援学校は、「各教科の中における自立活動の扱い方」について、小中学校の先生方と一緒に考えていけるとよい。小中学校のニーズを把握し、センター的機能の強化の方法を探ってほしい。

★スーパーバイザーから

- ・子どもの中にあるのは、発達の特性、認知の特性。障害は周りとの環境の間で起きている。関係性に問題があるという視点を広めていきたい。
- ・小中学校の先生は、教科指導の強みを生かす、特別支援学校の教員は、特別支援教育の専門性を生かす。上下関係ではない。お互いの得意分野を生かす。お互いが情報交換をすることが望ましい。それにより、お互いの教育が変わり、結果的にその子にとって一番よい学びの場を選ぶことにつながる。

米田先生からは、資料を基に国の動向や特別支援学級の在り方についてもご説明いただきました。



★スーパーバイザー

筑波大学人間系障害科学域 准教授 米田 宏樹 様
臨床心理士 馬場 英美 様

★外部委員

県西教育事務所学校教育課 主査 古木 忠 様
古河市教育委員会 指導主事 中山 正啓 様
坂東市教育委員会 指導主事 染谷志乃舞 様
境町教育委員会 指導主事 和気 健一 様
五霞町教育委員会 指導主事 奥井 隆行 様
古河市立名崎小学校 校長 菊池 隆史 様
坂東市立飯島小学校 校長 木島 剛 様
五霞町立五霞東小学校 校長 中川 孝志 様
※代理 教頭 南城ひろみ 様

今後の予定

10/25日(水) 13:30~15:00 ★第2回 さかとくインクル協議会

〈報告〉・研修会参加者アンケート結果 ・センター的機能の活用進捗状況 ・学校公開について
〈協議〉・特別支援教育のネットワークづくりについて ・就学前幼児の支援について

10/26(木)、11/1(水)、11/14(火) ★学校公開

〈授業公開〉・全学部、各教科等の授業 ・高等部校内実習、小学部学校間交流 など
〈その他〉・本校職員との座談会(相談会)「さかトーク」 ・教材展示
※詳細については、改めてご案内いたします。



★教材・教具の紹介

- ・教材リストのHP掲載
- ・教材・教具の貸し出し
- ・学習指導案リストの作成

★研修動画の配信

- ・自立活動の授業
- ・自立活動の基本について

